



冬の陸上競技の代表“マラソン”が酎（たけなわ）。一番楽しく感じるのは何をしている時かはそれぞれながら、ただ走っているだけで楽しいというのは何とも不思議。自然に触れ風を切る清涼感、汗をかく爽快感、走り切る達成感が魅力の源なのでしょう。

☆今月の一言【暗がりの犬の糞】失敗を押し隠し知らん顔をすること。新型コロナ対応策、原発ありきの電力供給の方針、金融政策など、これまでの方向性が果たして良かったのか。知らぬ間に何事もなかったかの如く済まされているかもしれません。

## 鋸（のこぎり）

部材を切断するための道具「鋸」。左写真のような各々の側に横引き刃と縦引き刃が施されている両刃タイプが一般的な鋸だと思われがちですが、片側だけに横引きあるいは縦引き刃の付いたものもあります。

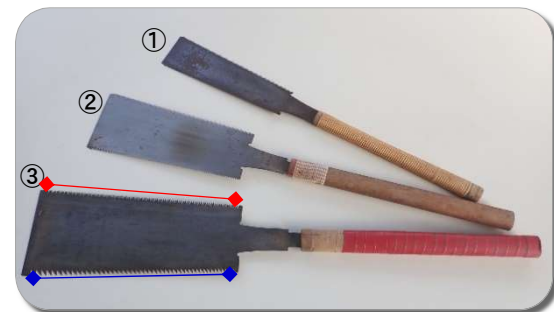
単に切ると言っても、目的に応じて用いる鋸の種類や使用法は様々。大雑把に長さや幅を切る簡単な作業から、線に合わせて正確に切る難易度の高い作業まで、これがプロの腕の見せ所。電動工具の普及で使用頻度は減りましたが、無くてはならない道具です。

さて、鋸挽きで鋸刃がスムーズに挽けるのは何故でしょう。鋸刃をよく見るとその秘密が分かります。

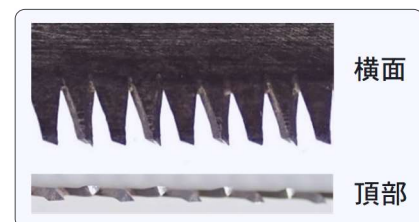
鋸刃が単にギザギザに施された平面だと、切断対象物の切断面と鋸刃面には隙間が出来ず、両者は密着し強い摩擦が生ずるため、鋸引きが困難になります。そこで鋸刃を互い違いに左右に広げる加工を施します。これを「あさり」と呼びます（左下鋸刃断面図参照）。すると、対象物と鋸刃の間に隙間が出来るので、摩擦が軽減されるため滑らかに挽けるのです。

左右の出が揃いと真っすぐ切れなかったり、刃の欠損にもつながります。刃の研磨やあさり出しなどの鋸の手入れをする「目立て屋」という専門職もありましたが、以前は職人自らが合間を利用して手入れをしていました。刃の数が多く気の遠くなるような作業で、均一に刃を揃えるには熟練を要します。30年以上も前ですが筆者も何度か挑戦しましたが、苦い経験の方が多くかも・・・（笑）

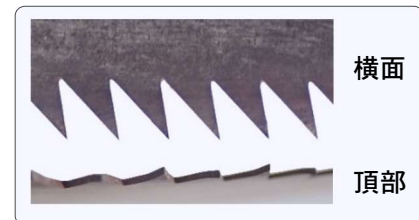
手入れの良し悪しが仕事の質を左右するので、手入れの腕前は職人の腕の一つと言えるでしょう。



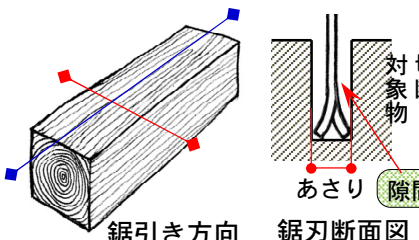
両刃鋸3種。①7寸目：敷居や鴨居・窓枠などの造作材の精密な切断に使用。②8寸目：軽微な造作用。③1尺目：骨組み等大きな部材の加工に使用。当社所有品



③の横引刃拡大写真。赤線側



③の縦引刃拡大写真。青線側



右は目立てをするときに使用する道具の当社所有品。下図のように挟んで固定し目立てやすりで研磨し、歯樋等の専用の道具を用いてあさり出しを施します。

左頁で紹介した手入れの手間を考えると断然コスト安であることから、現在使用されるものの主流は替え刃式のものに取って代わっています。例えば、35年前当時目立て屋に依頼すると鋸一本当たり約3000円を要したと記憶していますが、替え刃だと3枚入り一袋が1000数百円。しかも切れ味抜群！その差はいわずもがな。

## 鋸の種類と用途

写真は全て当社所有品  
通常頻繁に使用されるものから、特に用途が限られているものと様々ですが、その一部を紹介します。

1. 胴付き鋸：切断面がごく平滑を求められる繊細な造作に適し、刃厚が薄く変形しやすいため、背が金具で補強されている。
2. 鼻丸（はなまる）鋸：先端が丸形なのが特徴で比較的刃が長く大きな鋸。丸太のような大断面の部材の大まかな切断に用います。



1. 胴付き鋸



2. 鼻丸鋸



3. 木挽き鋸

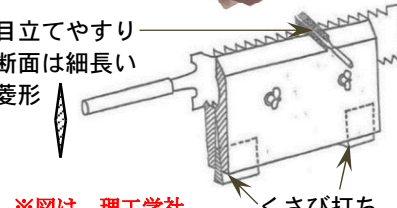
3. 木挽き鋸：特に製材の際に使用されていたもので、古くは別称「大鋸」とも。

4. 縦横引き兼用鋸：所々に縦引き刃が施されている。比較的近年の開発品？

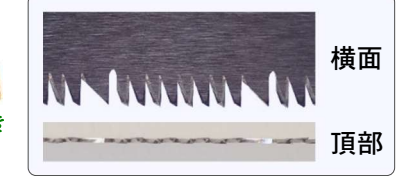
その他：鋸刃が細長い三角形で、板を曲線に切り込む等に使用する「ひき回し」。金属パイプや竹等の切断に用いる「つる掛け鋸」。旧型は柄付きに特化した「パネルソー」・「デコラソー」など用途に合わせて数多あります。



この先端に鋸刃を挟む。



目立てやすり断面は細長い菱形  
※図は、理工学社「大作業の実技」からの借用。



縦横引兼用刃拡大写真

## ざつがくの庭

仕事の腕前は様々な経験の積み重ねで身に付くもので、たとえ失敗してもそれが次の仕事の糧になるのはよくあること。同じ失敗を繰り返してはいけませんが…

一人前の技量を身に付けているような様子や仕事の腕を認められるとき「板につく」とよく言います。これは役者の世界が由来の言葉で、芝居の板敷きの舞台を意味しています。駆出しの役者は足の踏み方や手の動きが未熟で浮いて見えてしまうが、経験を重ねると芸や芝居が落ち着いてきて、舞台上でしっかり地に足が付くということからきています。調理場の板前が語源と勘違いされていることも多いようです。「これは完璧」という仕事の出来栄はそうないもの。日々は精進。

答え 1. つづり 2. いちる 3. とくほん 4. むらがる 5. いとぐち

## 読めますか？

1. 綴り
2. 一縷
3. 読本  
ヒント：膏薬
4. 叢る  
ヒント：人が…
5. 緒  
ヒント：話の…が